

平成29年度 自己評価表

鳥取県立鳥取湖陵高等学校

<p>中長期目標</p>	<p>(1) 生徒一人ひとりの心情を理解し、共感と相互信頼に基づいた指導を行う。 (2) 生命を尊ぶ心、人権尊重の心を育て、共生の精神を養う。 (3) 実験や実習などの実践的学習により、勤労観・職業観を養う。 (4) 特別活動を重視し、生徒の自主性・主体的な学習を促進し、協調性を養う。 (5) 資格・検定の取得やキャリア教育の充実により、生徒一人ひとりの進路実現を図る。</p>	<p>今年度の重点目標</p>	<p>教育活動全体をととして生徒理解を徹底し、一人ひとりに応じたきめ細かな教育を行う。 (1) 学力向上の推進 (2) ICT教育の推進</p>	<p>(3) キャリア教育の推進 (4) 活力ある学校づくり (5) 開かれた学校づくり</p>
--------------	--	-----------------	--	--

評価項目	評価の具体項目	年度当初			達成度参考基準 学校評価アンケート (生徒・保護者)等	評価結果		
		現状	目標	目標達成のための方策		経過・達成状況	評価	改善方策
学力向上の推進	○学力向上と学習指導の改善 ～鳥取湖陵高校流の学びの集団づくり～	○教職員各自1回以上の公開授業は、予定どおり実施されており、複数回実施の職員も増加。協同学習公開授業研究会を校外に公開実施し授業改善に取り組んでいる。	○「学び合い」を取り入れた授業の実践をさらに推進するとともに、学び合いと一斉授業のバランスのとれた鳥取湖陵高校流の授業づくりを推進する。	○引き続き各自1回以上の公開授業を進めるとともに、同じ教科内の積極的な授業参観を促す。継続して協同学習の研修会ならびに授業研究会を行い職員の力量を高めることを目指す。	○本校の先生は授業がわかりやすいように工夫をしていると答えた生徒の割合 (H28年度末 73.2%) A 80%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 65%以上 E 65%未満	各自1回以上の公開授業は、前期12回行われたが、授業参観者はまだまだ少ない。協同学習に関する職員研修会を夏休みに実施した。協同学習授業研究会は10月に実施する。(H29 中間アンケート 68.7%)	C	引き続き各自1回以上の公開授業を進めるとともに、積極的な授業参観を推進していく。あわせて後期に予定している校内授業研究会、iPad活用事業研究会を実施し、協同学習の定着をはかる。
	○基礎学力の定着	○家庭学習がほぼ毎日できている生徒の割合は、わずかに増加したが、自宅学習を定着化することが十分出来ていない。 ○基礎力診断テストを年3回実施するなど基礎学力向上に向けた取組を進め、その効果が少し表れている。	○家庭学習がほぼ毎日できていると回答する生徒を昨年度より増加させる。 ○基礎学力の向上と各々の専門技術の習得をととして、生徒の学習意欲の向上を図る。	○各科・教科で資格・検定の学習や週末課題・小テスト等の取組を進め、点検・評価することで自宅学習を促す。 ○鳥取大学の学生による学習ボランティア学習会への参加を積極的に進める。1年生の国語・数学・英語の授業において習熟度別授業を実施する。	○生徒の家庭学習がほぼ毎日できている生徒の割合 (H28年度末 27.6%) A 35%以上 B 30%以上 C 25%以上 D 20%以上 E 20%未満 ○基礎力診断テストの結果がDゾーンに該当する生徒数の割合 (H28年度末 54.4%) A 45%未満 B 50%未満 C 55%未満 D 60%未満 E 65%未満	家庭学習がほぼ毎日できているという生徒の割合は31.4%で3.8%増加した。基礎力診断テストDゾーンの割合は(H29 夏休み明け 56.6%)	C	2年次以降の課題研究の内容充実に向けて、1年次から専門科での学習内容の充実を図る。資格取得の奨励と取得目標資格を明確にし、継続的に指導を行う。
ICT教育の推進	○iPadを導入した協同学習の推進及び他校との連携等による活用の発信	○授業におけるiPadの使用頻度は授業日の1日当たり貸出回数延べ4回と活用されている。 ○専門学科である情報科学科2・3年生は、iPadを使った特別支援学校との交流を継続して行っている。また、ホームページ作り等で地域と連携した取組は多く行っている。	○授業にiPadを用いたICTを導入することにより、授業改善をより一層推進し、主体的な学習者を育成する。 ○情報科学科において特別支援学校との交流等、様々な場面で効果的な活用を提案し発信していく。	○有用なアプリの追加や職員研修会の実施により使われる形で職員の意識改革を図る。iPadを活用した授業研究会を行うことにより授業改善をより一層推進していく。 ○iPadを常時携帯している情報科学科生徒のiPadに、学習支援ソフトをインストールして学力向上にむけ積極的に利用を促す。	○iPadを使うことで授業に関心を持ち、主体的に取り組むようになったと答えた生徒の割合 (H28年度 全校 63.4%) A 85%以上 B 75%以上 C 70%以上 D 65%以上 E 60%未満	授業における共用iPadの使用頻度は週25/29時間で使用されている。情報科学科では学習支援ソフトを利用し、課題テストやアンケート・保護者連絡等に利用されている。(H29 中間アンケート 全校 54.4% 情報科学科 85.5%)	B	情報科学科における学習支援ソフトのさらなる有効活用について研究を行う。iPadを利用した協同学習の推進を図ることにより分りやすい授業を目指す。情報科学科3年生は3年間iPadを使用・活用してきた。iPad活用授業研究会では、iPadの活用状況についてその成果と課題についてまとめる。
キャリア教育の推進	○キャリア教育(勤労観・職業観を育てる教育)の充実 ～3年間を見通した進路指導の実施	○1年次から「キャリア塾」等を実施し、進路指導部を中心とした3年間を見通した組織的な取組を早い時期から継続実施している。課外指導や学習セミナーへの参加者も増加傾向にある。	○自分の学力や適性を認識させる工夫や取り組みを実践し、自己を磨くために必要な態度を育成する。その中で生徒の勤労観・職業観を育て、進路意識の高揚を図る。	○就職・進学に向け、面接指導の充実を図る。また、先輩からのアドバイス会(進学)を実施し進路意識を高める。1・2年生の進路ガイダンスを10月・3月に実施し、進路意識の向上を目指す。進学希望生徒の校外模試の受験を呼びかけ、意識の変容を目指す。	○本校は自分の適性や進路希望を生かした進路指導が行われていると答えた生徒の割合 (H28年度末 80.6%) A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 70%以上 E 70%未満	前期は就職試験に向けて、推薦会議後すぐに履歴書指導を行い面接指導の充実を図った。10月10日現在、就職希望者内定率は87%(H29 中間アンケート 80.4%)	B	1年次上級学校見学や先輩に学ぶ会、2年次インターンシップ等を実施し、各学科・進路指導部を中心とした3年間を見通した組織的な取組を継続実施していく。就職・進学に向け、面接指導の充実を図る。
	○規範意識の確立と礼儀・マナーの指導の充実	○生徒の主体的な「気づき」の指導を推進している。ほとんどの生徒が、整備された服装・頭髪で登校しているが、礼儀やマナーの部分でさらに徹底した指導が必要である。	○高校生らしい端正な身だしなみ、社会人として求められる礼儀・マナー等を身につけさせるため「気づき」の指導を徹底していく。	○服装や身だしなみ整備以外に、遅刻を無くする等の時間厳守の取組や挨拶指導等についても、生徒とのきめ細やかな面談や家庭との密な連携を行い「気づき」の指導を徹底していく。	○服装や身だしなみがきちんと整っていると答えた生徒の割合 (H28年度末 91.8%) A 95%以上 B 90%以上 C 85%以上 D 80%以上 E 80%未満	2学期より長い髪の女子生徒には常時くくる、化粧は落とすという指導の徹底を図っている。(H29 中間アンケート 91.6%)	B	服装検査事後指導を可能な限り翌日に行い服装や身だしなみの整備の徹底を図る。職員間でのブレの無い指導を行う。指導を繰り返す生徒には、保護者連絡を徹底し速やかな改善に努める。
	○人間関係形成力の構築	○いじめアンケートを年3回実施。QUアンケートも踏まえながら、良好な学級集団づくりに取り組むとともに人権教育LHRを充実させ、自らの課題として取り組む参加型LHRを推進している。	○生徒の実態を踏まえながら、人間関係や自己の生き方・在り方を考えさせる教育活動を充実させる。	○QUアンケートやいじめアンケート結果を踏まえながら、HR担任、保健室、SSWとの連携を深め、生徒の小さな変化を見逃さないように努める。人権教育LHR充実のためHR推進委員と連携をとり、自らの課題として主体的に取り組むLHRを推進する。	○人権や命を大切にすることを育てる教育がおこなわれていると答えた生徒の割合 (H28年度末 86.4%) A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 75%以上 E 75%未満	生徒と職員がともにつくる人権教育LHRを推進できた。配慮を必要とする生徒について丁寧な情報交換を行いながら対応することができた。(H29 中間アンケート 78.2%)	C	HR担任、保健室、SSWとの連携を深め、生徒の小さな変化を見逃さないようにする。生徒と職員がともに取り組む人権教育LHRを推進する。アンケート結果については適切な対応を行う。
活力ある学校づくり	○学校裁量予算 学校独自事業の推進によるスペシャリストの育成	○学校独自事業を推進し小中学校との交流や中学校への出前授業、各種催しへの参加、更には資格取得の取り組み等、着実に成果を上げている。	○「技術挑戦事業」、「調査・研究」、「チャレンジ資格」などのスペシャリスト育成事業に取組み、専門高校としての活力ある学校づくりを推進する。	○2・3年次の課題研究の学習内容を充実することで主体的に学習に取り組む姿勢を育む。資格取得に積極的に取り組む、生徒一人当たり年間1.7件の資格以上の取得を定着させる。	○生徒一人当たりの取得資格・検定数 (H28年度末 1.2件) A 1.7件以上 B 1.5件以上 C 1.2件以上 D 1.0件以上 E 1.0件未満	前期農業クラブプロジェクト発表会において、最優秀賞を受賞することができた。各種検定に今後取り組む。(取得資格検定数は今後まとめる)	B	中学校文化祭や街中学園祭への出展も継続実施する。湖陵フェスタ成功に向け体験・展示内容の充実を図る。後期に多く実施される資格取得に積極的に取り組み、生徒一人当たり年間1.7資格以上の取得を目指す。来年度以降の学校間連携について検討していく。
	○生徒会活動、特別活動、部活動、ボランティア活動等の充実	○青陵祭文化・体育の部の自主的な運営等、執行部の活動は活発である。中学生部活体験、体験入学など生徒会として積極的に内容の充実に貢献することができた。1年生の部活動加入率は上昇した。	○生徒会活動、部活動、ボランティア活動、TEAS活動等をととして、生徒の自主的な活動をさらに広げる。部活動参加意欲を高め継続的な活動を推進する。	○各種委員会活動等、自主的な活動ができるよう支援していくとともに、部活動結果報告を行い、部活動参加意欲を高めることにより部活動活性化を図り、部活動加入率85%以上を維持していく。	○自分は部活動に積極的に取り組んでいると答えた生徒の割合 (H28年度末 73.5%) A 85%以上 B 80%以上 C 75%以上 D 70%以上 E 70%未満	青陵祭文化・体育の部の自主的な運営等、執行部は学校をリードできた。フェンシング部・テニス部がインターハイに出場することができた。(1学期末アンケート 66.2%)	C	各種生徒会行事に向け反省会や企画会議を確実に実施し、従前のデータを効率よく利用しスムーズな運営を図る。部活動を3年間継続する大切さを進路指導と併せて、生徒・保護者に機会をたもたえて訴えていく。
開かれた学校づくり	○学校外との交流の推進と広報活動の充実	○専門高校の特性を活かした地域交流事業は活発である。ホームページの更新は、各分掌・学年・部活動で温度差があり、まだ迅速に行うことができていない部分もある。	○「異世代交流事業」、「地域ときらり事業」などの地域交流事業をより一層推進する。また、学校教育活動に関する情報を適切にわかりやすく発信する。	○ホームページの更新を各分掌・学年・部活動で温度差なく迅速に行うよう取り組むとともに、学校情報紙を中学校や地域、家庭に配布し広報を積極的に行う。また、地域と連携した土曜授業等事業についても取り組む。	○ホームページ等を活用して積極的に情報発信していると答えた保護者の割合 (H28年度末 74.2%) A 75%以上 B 70%以上 C 65%以上 D 60%以上 E 60%未満	今後小中学校、特別支援学校等と積極的に交流を行う予定である。ホームページに日々の活動状況を積極的に公開している。iPad活用日記が好評で周囲の方々に興味深く伝えられている。(1学期末は保護者アンケート実施せず)	B	ホームページの更新を各分掌・学年・部活動で温度差なく迅速に行うよう取り組むことにより、地域や家庭への広報を積極的に行う。「まちこみ」についても有効に活用していく。
	○湖陵フェスタの開催	○多数の地域住民や保護者・中学生に本校に来ていただいた。各科の学習内容や取組を理解してもらうよい機会となり、積極的な学校アピールができた。	○湖陵フェスタを開催することで、本校の教育をより積極的に地域、企業、関連進学先、中学生に知っていただき、学校の魅力を発信する。	○各学科との連携と生徒実行委員会を中心に、生徒の活動を積極的に引出すことで、湖陵フェスタをより充実したものとする。 ○折込広告やポスター掲示等により、フェスタの開催を積極的に広報する。	○湖陵フェスタ来場者アンケートで湖陵高校についてよく理解できたと答えた割合で判断する。(H28年度末 83%) A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 50%以上 E 50%未満	PTAによる青陵祭での模擬店や湖陵フェスタに向けPTAのOBとも連携して湖陵フェスタの成功にむけ活発に活動している。(1学期末は保護者アンケート実施せず)	B	昨年度の経験をふまえて、湖陵フェスタ成功に向け、職員間の連携、生徒実行委員会の活動の充実を図る。PTAにも積極的な支援をいただき内容充実にも努める。

評価基準 A:十分達成[100%] B:概ね達成[80%程度] C:変化の兆し[60%程度] D:まだ不十分[40%程度] E:目標・方策の見直し[30%以下]